

ふるさと応援寄付金特産品出発式を実施



↑ 特別栽培米を育てた農家の皆さん

10月22日（金）、ふるさと応援寄付金特産品出発式を広野町役場前駐車場で実施しました。

広野町は、平成27年度から町内のコメ栽培農家支援の一環として、農薬や化学肥料の使用を抑えた特別栽培の新米を返礼品としており、9千円以上を広野町にふるさと応援寄付金（ふるさと納税）をした全国各地の方々へ、広野産の特別栽培米を発送しています。

広野駅環境美化活動を実施



↑ 広野駅環境美化活動に参加した皆さん

10月23日（土）、広野駅環境美化活動が実施され、広野町婦人会会員、JR東日本OBの方々など約70名が駅周辺の除草作業を行いました。

この活動は、広野駅環境美化推進協議会メンバーが中心となり、電車を利用する方々が気持ちよく駅を利用していただくため毎年2回実施しております。

また、東日本旅客鉄道株式会社より美しい駅づくりに貢献したことに對し、広野駅環境美化協議会（会長：根本 衛さん）と広野町婦人会（会長：木幡 綾子さん）に感謝状が手渡されました。

宮崎市と広野町との災害時における相互応援協定締結式



↑ 防災協定を締結した遠藤町長（左）と戸敷市長（右）

10月28日（木）、町は、宮崎市との「災害時における相互応援協定」を締結しました。

本協定の締結は、当町の復旧・復興支援として、平成24年4月から現在に至るまで11名の災害応援職員を中長期的に当町へ派遣いただき、有事の際は、より円滑な災害対応がとれるよう本協定締結に至ったものです。協定締結終了後には、遠藤町長が約150名の職員を対象に「福島復興再生・創生への歩み」と題した講演を行い、これまでのご支援に対する感謝の意を届けてまいりました。

福島県町村会100周年記念式典



↑ あいさつを述べる遠藤会長

11月4日（木）、福島県町村会は、福島市のグリーンパレスで創立100周年記念式典を行いました。

会長の遠藤智広野町長は、「県内町村長の連合組織としての役割を果たし、町村の振興発展に全力を尽くす」と式辞を述べました。

席上、遠藤会長が第37代会長を務めた松本允秀ら歴代会長に感謝状を手渡しました。

県町村会は、1921年4月、県内419町村によって創立され、今年4月に100周年を迎えました。

「グローバル・デイ」、英語で交流



↑ 英語で積極的に会話をする中学生

10月7日（木）、広野中学校グローバル・デイ事業が広野中学校で開催され、東日本国際大学に通う海外からの留学生をお招きし、広野中学校2年生と3年生が英語の授業で交流しました。

この取り組みは、第二次広野町教育ビジョンに掲げる「グローバル人材を育成する教育の推進」の一環として、東日本国際大学の協力の下、毎月任意の日を「グローバル・デイ」に指定し、当該日は学校生活全般を英語で過ごすことを目指します。

特設大即売会を開催



↑ 賑わいを見せた即売会

11月6日（土）、7日（日）の2日間、広野町中央体育館を会場に、生活必需品の即売会「特別大即売会」と広野町プレミアム付商品券の臨時販売「商品券販売会」を開催しました。

特設大即売会には、イオン広野店をはじめ町内5店舗が出店し、家電や衣料品などを販売し、来場者は、プレミアム付商品券を利用し、家電製品や衣料品、玩具などを買い求めていました。

ひろの秋祭り開催



↑ 多くの展示品が並んだ文化展

10月31日（日）、広野町中央体育館などを会場に、令和3年「ひろの秋祭り」が開催され約800名の町民が来場しました。セレモニーでは、遠藤町長が「家庭」「地域」「行政」が相互に連携・協働しながら健康づくりの輪を広げるため「脱お通者度ワースト1、脱メタボ」を宣言しました。「ひろの秋祭り」には、地元産の野菜などの販売や先着300名の方に大根が無料配布された収穫祭に加え、各種文化団体会員の絵画などの作品や地元の子どもの絵や習字など、多数の作品が展示され、来場した多くの人が鑑賞しました。

令和3年度広野町ふるさと創生大学 第3回【皆さんに今、伝えたいこと】



↑ 第3回ふるさと創生大学の様子

11月5日（金）、第3回広野町ふるさと創生大学が広野町公民館大会議室で行われました。講師に広野町起業型地域おこし協力隊の大場美奈様、そしてゲストにいわき市川前地区地域おこし協力隊の三戸大輔様をお迎えし、トークショー形式でお話いただきました。広野町を「通り過ぎる町」から多くの人がとどまることのできる「新しい出会いと出来事が生まれる場所」に変えるべく、現在は【多世代交流スペースがらっとあっと】を拠点に、地域のために尽力されているそのお姿に、受講生は真剣に耳を傾けていました。